

富山県で捕獲されたニホンイシガメとクサガメの交雑種

不破光大・稲村 修（魚津水族館）

Record of the hybrids of *Mauremys japonica* and *Mauremys reevesii*

from Toyama Prefecture, Japan

Mitsuhiro FUWA Osamu INAMURA

Uozu Aquarium

はじめに

ニホンイシガメ *Mauremys japonica* は、本州、四国、九州およびその周辺の島嶼に分布している日本固有種である（内山ら，2022）。一方，クサガメ *Mauremys reevesii* は18世紀末に朝鮮半島から人為的に持ち込まれた外来種とされている（疋田・鈴木，2010）。両種は交雑することが知られており通称「ウンキュウ」の名で販売されているほか，野生化においても交雑することがある（上野・亀崎，2015）。

富山県におけるニホンイシガメとクサガメの交雑種（以下，交雑種と略記）は，川上・西尾（2017）が氷見市柿谷において複数個体を確認したものが最初で，その後は森ら（2020）が氷見市柳田で1個体，不破ら（2023）が小矢部市臼谷で1個体を記録したのみである。今回，魚津水族館で行った条件付特定外来生物アカミミガメ調査（不破・稲村，2024）と淡水生物調査中に4か所で交雑種を確認したので報告する。

捕獲個体と捕獲地の状況

2022年から2024年の間に，富山県内4か所において交雑種の発見および情報提供があった（図1）。交雑種の外部形態形質は鈴木（2015）の「①背甲の色（ニホンイシ

ガメは黄色から茶色，クサガメは茶褐色から焦げ茶色であり，ニホンイシガメの方がクサガメより淡い色をしている.），②背甲の形状（ニホンイシガメは1本のキールを有し，背甲の後縁部が鋸歯状となる。一方のクサガメは3本のキールを有し，背甲の後縁部が鋸歯状とならない.），③頸部の黄色いストライプ模様（ニホンイシガメは見られないが，クサガメには確認される。ただし，性成熟した雄は黒化するため模様は消える.）」を参考とした。以下に捕獲個体と捕獲地の情報を記すが，ニホンイシガメの生息地保全の観点から市町村名までとした。



図1 交雑種の確認地点



A 2022年4月6日 滑川市

アメリカザリガニ調査用に仕掛けたカニ籠で捕獲した。一見するとニホンイシガメに見えるが、甲羅が黒色でクサガメ特有の悪臭があった。本地点では、アカミミガメ(稲村ら, 2014)とクサガメ(不破・稲村, 2024)を確認しているがニホンイシガメの記録はない。本個体は、放流個体もしくは放流個体が流れ着いたものと推測される。



B 2022年10月13日 滑川市

富山テレビ放送の番組撮影中に、滑川市立東加積小学校の児童らと手ダモで捕獲した。背甲は黄色から焦げ茶色を呈し、後縁部は鋸歯状であった。また、頸部には黄色いストライプ模様があった。本地点の上流部において2023年10月12日

に、魚津水族館の淡水魚採集時にニホンイシガメを捕獲している(吉岡・齋藤, 私信)。また、福田ら(2017)ではさらに上流部の池でクサガメを確認しており、野生下で交雑している可能性もある。なお、本個体は魚津水族館へ持ち帰り交雑種の啓発のため展示した。



C 2024年5月22日 小矢部市

本個体はウチダザリガニの調査用に仕掛けたカニ籠で捕獲した。本地点は2022年10月7日に著者らによって捕獲した河川(不破・稲村, 2023)と同所であり、2個体目となる。背甲は黄色から焦げ茶色を有し、後縁部は鋸歯状であった。また、頸部には黄色いストライプ模様があった。捕獲時には同サイズのクサガメも1個体捕獲した。福田・南部

(2011)は、本地点より上流側でニホンイシガメの生息を確認しているが、クサガメは未確認であった。なお、本個体もBの個体と同じく魚津水族館で展示した。



(撮影：平田 鍊 氏)

D 2024 年 6 月 1 日高岡市

入善町にある観賞魚店「熱帯魚 Boo」の平柳淳店長より、「お客さんが変わったカメを見つけた」と写真提供があった。写真を確認したところ背甲に 1 本のキールを有し頸部の黄色いストライプ模様があった。周辺の水系ではニホンイシガメが確認されているが(不破, 未発表), クサガメは未確認である。

考察

富山県内の野生下において複数か所で交雑種が確認された。外来種のクサガメによって、富山県内においても日本固有種のニホンイシガメが遺伝子攪乱の影響を受けていることは明らかである。自然交配のほかに、ウンキュウとして販売されているペットの遺棄も考えられる。鈴木 (2015) によると交雑種にも繁殖能力があることから、ペット由来の交雑種が放流されれば、親種との戻し交雑や雑種同士の交雑を経た交雑個体が生じるなど、さらなる混乱を招く可能性がある。今の状況が続けば、ニホンイシガメの生息地において純粋なニホンイシガメを失ってしまう危険性がある。特にイシガメの生息が比較的多く確認されている

県西部において、クサガメとニホンイシガメの両種が生息する地を特定して保全対策を講じる必要がある。

謝辞

今回、貴重な情報を提供していただいた熱帯魚 Boo 店長の平柳淳氏および写真を提供していただいた平田鍊氏、氷見市における情報を提供していただいた氷見市教育委員会の西尾正輝氏に感謝いたします。

引用文献

- 疋田 努・鈴木 大. 2010. 江戸本草書から推定される日本産クサガメの移入. 爬虫類両棲類学会報. 2010 : 41-46.
- 福田 保・澤田研太・南部久男. 2017. 郷川流域の両生類・爬虫類. 富山の生物 56 : 40-44.
- 福田 保・南部久男. 2011. 渋江川の両生・爬虫類. 富山の生物 50 : 37-42.
- 不破光大・稲村 修. 2023. 富山県で初確認されたウチダザリガニ *Pacifastacus leniusculus*. 富山の生物 62 : 86-91.
- 不破光大・稲村 修. 2024. 富山県における条件付特定外来生物 (アメリカザリガニ・アカミミガメ) の分布調査と普及啓発. 魚津水族博物館年報 34 : 29-34.
- 稲村 修・不破光大・草間 啓・中井克樹. 2014. 早月川河川敷の水溜りにおける人工産卵装置導入によるオオクチバスの繁殖抑制について. 魚津水族博物館年報 23 : 18-20.
- 川上僚介・西尾正輝. 2017. 氷見市において約 30 年ぶりに記録されたニホンイシガメ. 富山の生物 56 : 89-91.
- 鈴木 大. 2015. ニホンイシガメとクサガ

メの異種間交雑. 日本の淡水カメ記録
亀 10 : 1-5.

上野真太郎・亀崎直樹. 2015. カメ類の交
雑問題. 爬虫類両棲類学会報. 2015 :
158-167.

内山りゅう・前田憲雄・沼田研児・関慎太
郎. 2002. イシガメ. 決定版日本の両生
爬虫類. Pp180-182. 平凡社, 東京.

魚津水族博物館年報 第 34 号

ANNUAL REPORT OF UOZU AQUARIUM No.34

2025 年 3 月 編集

編集／魚津水族博物館

〒937-0857 魚津市三ヶ 1390

TEL (0765) 24-4100

FAX (0765) 24-4128

HP <https://uozu-aquarium.jp>

E-mail suizoku@city.uozu.toyama.jp

ISSN 2434-1843